

# Ensemble Ricreation d'Arcadia 2025

アンサンブル・リクレアツィオン・ダルカディア 2025



Roma... negli anni 1690

1690年代のローマ

Mannelli, Migali e Corelli

マンネッリ、ミガーリ、コレッリの作品を巡って

## Ricreation d'Arcadia

アンサンブル・リクレアツィオン・ダルカディアは2024年に結成20年を迎え、『サンティーニ・コレクション』から新発見されたピエトロ・マルキテッリの作品を演奏し、その魅力を紹介しました。このコレクションには、8曲のトリオ・ソナタと2曲の四重奏曲が含まれ、後半にはピエトロ・ミガーリの1693年出版の作品1が収録されています。ミガーリの音楽を通じて、アンサンブルは17世紀末ローマのトリオ・ソナタの世界に新たに触れることができました。2025年2月の公演では、ピエトロ・ミガーリ、アルカンジェロ・コレッリ、カルロ・マンネッリの作品を取り上げ、1690年代ローマの音楽の多彩な魅力を探ります。

アンサンブル・リクレアツィオン・ダルカディア  
Ensemble Ricreation d'Arcadia

松永 綾子(ヴァイオリン)

Ayako Matsunaga

山口 幸恵(ヴァイオリン)

Yukie Yamaguchi

懸田 貴嗣(チェロ)

Takashi Kaketa

渡邊 孝(チェンバロ)

Takashi Watanabe

2025年

2月22日(土)

昼公演: 15:00 開演 14:30 開場

夜公演: 17:30 開演 17:00 開場

今井館 聖書講堂

(JR 駒込駅 徒歩約8分、六義園隣) 東京都文京区本駒込 6-11-15

全席自由 5,000円

ご予約・お問合せ:

オフィシャルシュ <https://www.officearches.com>

Tel. 03-3565-6771

teket からの予約 <https://teket.jp/8707/43849>

teket



### プログラム:

カルロ・マンネッリ(1640-1697)

トリオ・ソナタ 第10番 二短調 『パスキューニ』 作品2

トリオ・ソナタ 第2番 ト長調 作品3

ピエトロ・ミガーリ(1635-1715)

トリオ・ソナタ 第10番 ハ短調 作品1

アルカンジェロ・コレッリ(1653-1713)

トリオ・ソナタ 第10番 ト長調 作品4

ほか



## Ensemble Ricreaton d'Arcadia

アンサンブル・リクレアツィオン・ダルカディア

『リクレアツィオン・ダルカディア Ricreation d' Arcadia』という名前は、イタリアの作曲家、ピアジョ・マリーニ (1594 - 1663) の作品 3 (アリアとマドリガーレとコレンテ集、1620年) のなかのタイトルからとられました。『理想郷での楽しみ』とでも訳せるこの名前は、われわれ音楽家の精神はいつも歩み続けなければならない、そして音楽のあるべき到達点 = 理想郷を目指そう、という理念の下に名づけられました。またそれは同時に私たち自身への問題提起でもあります。現代の私たちにとっては、3・400年前の人々の演奏そのものが、ひとつの《アルカディア》であるといえます。過去のものを取り戻す事や、見ることは不可能です。できて、追体験というところでしょう。私たちは、17世紀のローマのアルカディア会において喜びに満ちて叫んだ人のように、『ここにアルカディアあり!』と叫べるのだろうか?そして、何が、アルカディアであるべきなのだろうか? 私たちはその『アルカディア』への夢を持ち続けることが出来るアンサンブルでありたいと考えています。2001年モンテヴェルディの作品をテーマとしたコンサートをきっかけに出会い、2004年から活動を始めた。4人のメンバーは現在ヨーロッパを拠点とし、「イル・ジャルディーノ・アルモニコ」「アカデミア・ピザンチーナ」「アンサンブル・ゼフィロ」「B' Rock」「ラ・ヴェネシアーナ」「バッハ・コレギウム・ジャパン」「オーケストラ・リベラ・クラシカ」など、日本のみならずヨーロッパの古楽グループのメンバーとしてもそれぞれ活躍している。2004年秋、イタリア、ロヴェレートでの第8回ボンポルティ国際古楽コンクールのアンサンブル部門で第1位、聴衆賞、ORF(オーストリア国営放送)録音賞を受賞。本選の様子はイタリア RAI と ORF でラジオ放送された。2005年夏から秋にかけてイタリアとスロヴェニアでの11の音楽祭へ出演、大成功を収めた。その後、オーストリアのメルク国際バロック音楽祭、インターネ・バロックフェスティバル、エツカルツァウ城でのコンサートシリーズ、ザンクト・フローリアン・フィオリ・ムジカーリ、ブルンネンタール音楽祭、イタリアでは、メラーノ、プレッサノーネの音楽祭などに出演、いずれも圧倒的な支持を得た。国内では、2006-08年目白バ・ロック音楽祭に参加、グナール・レッツボール、エンリコ・ガッティ、ラ・ヴェネシアーナらと共演し大きな話題となった。(ラ・ヴェネシアーナとのライブはNHK/BSで録画・放送された) また、2011年にはNHK-FMの名曲リサイタルにも出演した。2009年から東京オペラシティ・近江楽堂で定期的に行われるコンサートシリーズは、ナポリの知られざる作曲家に焦点を当てた「ヴィヴァ、ナポリ!!」や、バッハのゴルトベルク変奏曲の演奏会と並んで企画された「ヨハン・ゴットリーブ・ゴルトベルクとドレスデン宮廷の音楽家たち」、「モーツァルトとバッハ一族 - 偉大なパトロンとしてのG. van スヴィーテン男爵」、「マシッティとアヴィトラーノ」など毎回意欲的なプログラミングと、演奏の質が各方面より高く評価されており、識者からも大きな注目を集めている。

これまでに、J=M. ルクレール『ジャン・マリールクレールの肖像』、バルダッサレ・ガルッピ『6つのトリオソナタ集』をコジマ録音よりリリースしている。

<http://ricrearcia.exblog.jp/>

<http://darcadia.blogspot.com/>



その生涯に関する情報の乏しいミガーリが唯一 1696年にローマで出版した作品1。そこから、ときをほぼ同じくローマで出版され、ムッフアットをして「イタリアにおけるヴァイオリンのオルフェオ」と言わしめたアルカンジェロ・コレッリの作品4 (1694年)そして、コレッリの名声中現在ではあまり顧みられることのない、しかしローマにおいて重要な作曲家・ヴァイオリン奏者であった影のヴァイオリンのヴィルトゥオーゾ、カルロ・マンネッリの作品3 (1692年)などが当時の主要な作品としてあげられます。2025年2月のアンサンブル・リクレアツィオン・ダルカディア公演では、これら3人の作曲家の作品を通して、1690年代のローマの音楽諸相の一端をうかがってみたいと思います。

ご予約・お問合せ:

オフィスアルシュ <https://www.officearches.com>

Tel. 03-3565-6771

teketからの予約 <https://teket.jp/8707/43849>

teket



# Ricreation d'Arcadia